

**（件名）日本語教育に取り組む高校への訪問について**

- ・4月18日、上海で日本語教育に取り組む朝陽義塾日本国際高校を訪問しました。同校は2016年に設立された全寮制の私立高校で200名程の生徒が在籍しています。1年生から2年生にかけて日本語の基礎から応用までを学び、その後1年から1年半の期間、日本の提携高校へ留学を経て、日本の大学への進学を目指すカリキュラムが用意されています。
- ・学校は上海市の中心部から車で1時間半程離れた郊外に立地し、周囲はキャンプ場や乗馬施設などのレジャー施設が集積するリゾート地。学校内の施設は充実しており、食堂、ジム、ダンススタジオ、菜園、カフェ、アトリエなどを備えています。
- ・校内には日本の高校・大学・専門学校の入学案内パンフレットが多数設置され、食堂のモニターでも日本の大学のプロモーション映像が常時放映されるなど、日本の教育機関との協力関係構築も進められています。
- ・文化顧問として在籍されている照屋先生から、日本語の授業について説明いただきました。照屋先生は中国以外の国でも日本語指導に携わり、様々な環境下にある生徒たちの教育に取り組んできた経験をお持ちで、中には生徒たちが長期間農作業に駆り出され授業時間をほとんど確保できないこともあったそうです。そうした状況でも生徒たちが少しでも意欲的に学習に取り組めるようオリジナルの指導方法をいくつも考案され、訪問時にはその指導方法の中から、ひらがなを使った文字絵作りなどについて説明いただきました。
- ・日中間の緊張が続く情勢の中でも、日本に高い関心を持って日本語学習に励む生徒は少なくないようで、同校訪問時に開催されていた入学希望者向けの学校説明会でも、中学生や保護者が熱心に説明を聞いていた姿が印象的でした。



充実した学校関連施設



清潔で衛生的な食堂



美術コースの生徒の作品



照屋先生による文字絵作り

（件名）香港での日本産食品販路拡大に関するヒアリングについて

- ・香港で日本産食品輸入事業を手掛ける商社や海外展開支援機関を訪問し、販路拡大のポイントなどについてヒアリングを行いました。主な内容は次のとおりです。
- 最近の日本産食品販売の傾向
- ・香港には訪日リピーターが多く、他の国に比べ日本の産品に慣れ親しんでいる。そのためか日本の空港や土産物店ですぐに手に入る商品に対しては希少性が薄れがちで、日本国内では売れ行きが良い商品でも香港に輸入してみると思いのほか反応が鈍い場合が多い。
- ・一方で、北海道内でも一部の地域でしか販売されていない商品や、特定の用途に絞ったニッチ商品（卵かけご飯専用調味料等）などは引き合いがある。物産展やスーパー店頭での試食を通じてPRを行い、一度気に入ればまとまった量を購入していくケースもある。
- PRの方法
- ・広東語による情報発信が重要。香港の人がSNSなどで情報収集する際には広東語で検索するが、日本産品や観光地のページは広東語対応していないものも多く、情報発信が十分に活かされていない。機械翻訳でもよいので広東語の表示をつけて発信すると効果的。